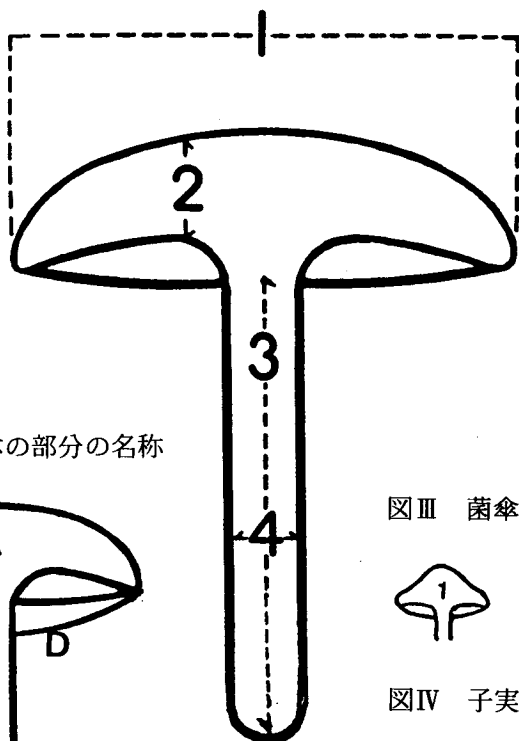
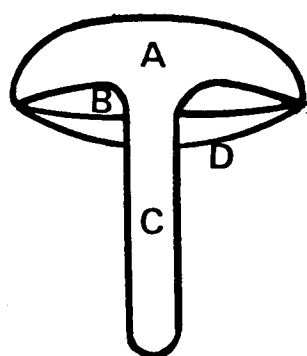


子実体の部分の名称と測定部位

図Ⅱ 子実体の測定部位



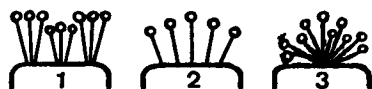
図Ⅰ 子実体の部分の名称



図Ⅲ 菌傘の断面の形態



図Ⅳ 子実体の発生型



図Ⅰ

A 菌 傘
B 菌 褶
C 菌 柄
D 内 被 膜

図Ⅱ

1 菌傘の直径
2 菌傘の厚さ
3 菌柄の長さ
4 菌柄の太さ

図Ⅲ

1 凸 形
2 丸 山 形
3 平 形

図Ⅳ

1 群 状 型
2 散 状 型
3 株 状 型

審 査 基 準

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
遺 伝 的 特 性											
嫌触反応											
寒天培地による対峙培養											①供試培地は、PDA (Difco) とする。 ②シャーレ（内径 9 cm、高さ 2 cm）に常法により滅菌した供試培地を分注する。③この供試培地の平面の中央部付近に、別に供試培地で15～20日間、20～25℃で前培養した2核菌糸の小片（5 mm程度）を3 cm間隔に対峙させるように接種し、20～25℃で培養する。 ④両菌叢が接触したら、シャーレを照度300LUX 以上の自然光下におき、20～25℃を保ち、帯線形成の有無を判定する。
帯線形成	+								—	帯線の形成されたものを+、形成されないものを—とする。	
生 理 的 特 性											
寒天培地での菌糸の生長											①供試培地は、PDA (Difco) とする。 ②シャーレ（内径 9 cm、高さ 2 cm）またはライオンのグロースチューブ（1区5～7枚または本）に供試培地を分注する。③この培地に、別に供試培地で15～20日間、20～25℃で前培養した菌叢からとった2核菌糸の小片（5 mm程度）をシャーレまたはグロースチューブの一端に接種し、最適温度で培養する。④菌叢の直径が10mm（接種片を含む）程度に達したら、シャーレまたはグロースチューブを所定の温度に移し、1～2日後測定を開始する。
温度別生長速度										5 日間の生長速度を測定する。	
15℃の場合			早 い		普 通		遅 い			21mm以上を早い、20～11mmを普通、10mm以下を遅いとする。	
25℃の場合			早 い		普 通		遅 い			45mm以上を早い、44～26mmを普通、25mm以下を遅いとする。	

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
30℃の場合			早 い		普 通		遅 い			41mm以上を早い, 40～21mmを普通, 20mm以下を遅いとする。	
高温に対する耐性			弱 い		普 通		強 い			5 時間処理で再生しないものを弱い, 5 時間処理で再生するが, 15時間処理では再生しないものを普通, 15時間処理で再生するものを強いとする。	寒天培地で培養した菌糸体を45℃で所定の時間で処理し, 菌糸の再生の有無を判定する。
培養菌糸の密度			粗		普 通		密				標準品種と対比する。
気中菌糸の発達程度			少ない		普 通		多 い				標準品種と対比する。
栽 培 的 特 性											
種菌接種から実体発生までの期間											鋸屑培地による瓶（ビン）栽培 ①供試容器は, ポリプロピレン（PP）培養瓶（丸形, 容量 800cc, 口径50～60mm）を使用する。②供試培地は, 風乾した鋸屑（スギ）3 : 米糠1（容積比）, 含水率60～65%（標準）とする。 ③供試種菌は, 鋸屑種菌を使用する。 ④供試培地は, 高圧殺菌したのち, 供試種菌を接種し, 20～25℃で培養する。種菌の接種量は約20ccとする。⑤熟成・菌かきは, それぞれ最適条件下で行う。⑥照度は, 300～500LUX とする。 ⑦収穫時期は, 株の中心部の子実体の内被膜が切れる前とする。
発生処理（菌かきを含む）までの培養期間	20 日 以 下	21～ 25 日	26～ 30 日	31～ 35 日	36～ 40 日	41～ 45 日	46～ 50 日	51 日 以 上			
発生処理後の最適温度での子実体収穫までの期間	10 日 以 内	11～15 日	16～20 日	21～25 日	26 日 以 上						
芽出し最適温度	10 ℃ 以 下	11～14 ℃	15～18 ℃	19～22 ℃	23～26 ℃	27 ℃ 以 上					
子実体の生長											
最適温度	10 ℃ 以 下	11～14 ℃	15～18 ℃	19～22 ℃	23～26 ℃	27 ℃ 以 上					

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
子実体の発生型											
発生型			群状型		散状型		株状型			「参考図」図IV参照。	鋸屑培地による瓶（ビン栽培） ①供試瓶（ビン）は、1ブロック25本とし、3回実施する。②収穫時期は、株の中心部の子実体の内被膜が切れる前とする。③生重量は、子実体の株の基部に付着する培地を除去したのち計量する。
収 量		80 g 以下		81 ~ 100 g		101 ~ 120 g		121 g 以上		生重量を計量し、1瓶（ビン）当たりの平均値を算定する。	
有効茎本数		10 本 以下		11~20 本		21~30 本		31 本 以上		有効茎数は、茎の長さ40mm以上のものとする。	
培 地 適 応 性	原 木	鋸 屑	その他								
培地材料に対する選択性											
樹種選択性	広葉樹	針葉樹	混 合								
その他の培地材料に対する適応性	わ ら	も が	その他								
形 態 的 特 性											
										子実体を無作為に100個体抽出し、平均値を算定する。	鋸屑培地による瓶（ビン）栽培 ①収穫時期は、株の中心部の子実体の菌傘の内被膜の切れる前の成育初期のものと、菌傘が十分開いた成熟期のものを測定する。②形態的特徴が混在して現われるものは、その比率の高いものを測定する。

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
菌 傘											
大 き さ			大		中		小			61mm以上を大, 60~41mmを中, 40mm以下を小とする。	子実体の菌傘が十分開いた成熟期のものを測定する。
厚 さ			薄 い		普 通		厚 い			6mm以下を薄い, 7~9mmを普通, 10mm以上を厚いとする。	子実体の菌傘が十分開いた成熟期のものを測定する。
断面の形態											
生育初期										「参考図」図Ⅲ参照。	
成熟期										「参考図」図Ⅲ参照。	
色											
生育初期	白 色	淡褐色	褐 色	濃褐色							
成熟期	白 色	淡褐色	褐 色	濃褐色							
表面のしわ			少ない		普 通		多 い				子実体の菌傘が十分開いた成熟期のものを測定する。 標準品種と対比する。
肉 質			軟 らい か		普 通		硬 い				標準品種と対比する。

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
苗 槽											
菌柄へのつき方	直 生								垂 生		
色	白 色	黄白色	淡褐色	褐 色							子実体の菌傘が十分開いた成熟期のものを観察する。
並び方			正 常		波 状 ちぢれ		その他				
巾			せまい		普 通		広 い				標準品種と対比とする。
密 度			粗		普 通		密				標準品種と対比する。
菌 柄											
長 さ			短かい		普 通		長 い			70 mm以下を短かい, 71～90 mmを普通, 91 mm以上を長いとする。 「参考図」図Ⅱ参照。	
太 さ			細 い		普 通		太 い			6 mm以下を細い, 7 ～9 mmを普通, 10 mm 以上を太いとする。 「参考図」図Ⅱ参照。	
形	細 長	細 短	太 長	太 短	中 太					「参考図」図Ⅱ参照。	
色	白 色	淡褐色	褐 色	濃褐色							
ささくれ			少ない		普 通		多 い				

項 目	区 分									測 定 基 準	調 査 方 法
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
肉 質			軟らかい		普 通		硬 い				標準品種と対比する。
断 面	中 空								充 実		
菌傘の直径と菌柄の長さとの比率			0.3 以下		0.4～ 0.6		0.7 以上				菌傘の直径÷菌柄の長さにより比率を算定する。
内被膜											
取れ方			取れやすい		普 通		取れにくい				標準品種と対比する。
色	白 色	淡褐色	褐 色								
含 有 成 分											
子実体の特殊含有成分量											